

事業者様へのヒアリング事項

定量型環境ラベルプログラムに参加されている事業者様向けのヒアリング

＜目的・ターゲット＞

- ① 貴社が定量型環境ラベルを取得する目的／ターゲットをどのようにお考えですか？
(例:CSRの一環、業界での優位性PR(訴求ポイントに活用)、販売戦略としての位置付け、市場が求めている／環境意識の高い消費者、一般の消費者、サプライチェーン・自社内でのコミュニケーション等)
- ② 国内外において、どのような環境情報の発信が有効かつ効果的とお考えですか？
(例:「途上国向けではその国において対応が重要視されている環境情報の発信が有効」等)

＜政策的位置づけ＞

- ③ 定量型環境ラベルについて、現在ボランティアな取組となっているが、普及のためには、今後、どのような対応が必要と考えますか？
(例:ボランティアな取組ではあるものの、当該取組に対し、消費者から評価されるなど社会的なインセンティブが構築されることが必要等)

＜取組上のメリット＞

- ④ 定量型環境ラベルを取得することで、国内外それぞれにおける、経営・営業上のメリットについてお伺いします。
 - 1) メリットとしてはどのようなものが考えられますか？
(例:製品の売り上げ増、企業イメージの向上、サプライチェーン情報の管理、環境負荷の数値比較による優位性主張)
 - 2) 上記の内、貴社としては特にメリットとして何を期待しますか？
 - 3) 今のプログラムは、メリットにつながる要件を満たしていると思いますか？
満たしていないとすれば、どのような部分についてですか？
 - 4) 現在は、メリットになっていないが今後あるべきと考えられるメリットはどのようなものが考えられますか？
そのための改善のアイデアはありますか？
 - 5) 定量型環境ラベルを取得したことで、国内外それぞれにおいて、経営・営業上のメリットを感じたことがありますか？
上記1)～4)のいずれに該当するものですか？
 - 5)－1 【メリットを感じたことがある場合】具体的にどのような効果を感じましたか？
(例:環境配慮企業としての評価が得られた、取引先の調達基準等(グリーン調達基準等)に合致し取引に繋がった、環境意識の高い消費者への販売等)
 - 5)－2 【メリットを感じたことがない場合】どのようにすれば経営・営業上のメリットにつながると お考えですか？
(例:メリットを具体化するための、方法論、改善点として、表示の仕方、(エコマークなどとの)統合化、適用範囲、海外等のラベルプログラムとの相互認証など)
 - 6) その他、環境ラベルには、定量型環境ラベル(タイプⅢ)以外に、タイプⅠ(エコマーク)やタイプⅡ(各社が独自に運用)の3つがありますが、これらが別々に運用されている状況について、何かご意見をお持ちですか？
(例:海外の事例として、EPEAT(USA)やブルーエンジェルマーク(ドイツ)のように、LCAの実施をラベルなどの条件のひとつに取り込んでいる動きについて)

- ⑤ 定量型環境ラベルを取得、利用される上で特に課題と思われることは何ですか？
（例：コストが高い、審査手続きが複雑、原単位等算定に必要なデータの整備が十分ではない（データが少ない、古い、統一されていない）、認知度が低い、数値の見える化だけでは環境製品として訴求できない、中小企業においては対応負荷が大きい等）
- ⑥ ⑤の課題を解決するためにはどのような対応が必要とお考えですか？
（例：コストを下げる、成功事例を整備し公開する、原単位の整備を進める、カーボン・オフセット、削減貢献などとの一体的な運用等）

<他の制度との関係>

- ⑦ エコマークなど他の環境ラベルを取得、利用されていますか？ 取得、利用している場合、それらの環境ラベルとの併用で困ったことはありませんか？
（例：特に直接的な効果を求めているわけではないので、問題ない。環境ラベルが氾濫しており、情報の受け手が理解ができていないと感じる等）

<海外への対応>

- ⑧ 海外の環境ラベルを取得されていますか？ 海外の環境ラベルを取得している場合、国名と制度名、取得の目的は何ですか？
- ⑨ 海外の定量型環境ラベル制度との相互認証を望まれますか？
- ⑩ 欧州委員会の環境フットプリントと我が国の定量型環境ラベルが整合すると良いと思いますか？

以上